

2 上位・関連計画等の調査・整理及び現行計画の進行評価

2.1 上位・関連計画における公共交通の位置づけ

本市の公共交通に係わる上位関連計画の位置づけ、施策・プロジェクトを整理し、政策連携を検討する上での基礎資料とした。整理した計画は次のとおりとなる。

各計画、施策・プロジェクトとの整合を図り、まちづくりと連携した施策・事業推進を検討する。

2.1.1 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン

「第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」は、本市のあるべき姿と進むべき方向性の基本的な指針として市民にまちづくりの長期的な展望を示すものであり、本市の最上位計画に位置付けられる。急速に進行する少子高齢化や本格的な人口減少社会の到来など、これまで経験したことのない社会の変化を的確に捉え、将来にわたって活力ある地域社会を形成することを目的とするものである。

表 2-1 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（一部抜粋）

項目	内容
計画名	第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン
策定年度	平成28年度（2016年度）
計画の期間	平成29年（2017年度）4月～令和4年（2022年）12月
将来都市像	人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎
まちづくりの方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 若者・子育て世代が安心して結婚・子育てできる環境を創出する。 2. 住みよさの向上など、住んでみたいと感じるまちづくりを推進する。 3. 少子高齢型社会に対応した地域活力を想像する。 4. ふるさと龍ヶ崎の現在を担い、未来を拓く人づくりを推進する。 5. 将来につながる基盤づくりを推進する。
土地利用の基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全・安心で住みよい環境の形成 2. 魅力的で機能性の高い各種拠点 3. 快適で便利な市街地環境の形成 4. 集落の生活環境の維持向上 5. 自然環境の保全と活用
実行プラン	<p>■戦略</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 若い世代の希望の実現「若者・子育て世代の定住環境の創出」 2. 教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」 3. 地域活性化「まちの活性化と認知度向上」 4. 地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」 5. 持続可能な行財政運営「将来につながる基盤づくり」

項目	内容																			
<p data-bbox="199 219 472 253">公共交通に関する内容</p> <p data-bbox="331 275 737 309">■戦略1. 若い世代の希望の実現</p> <p data-bbox="331 322 895 356"><目標2. 住んでみたいと感じるまちづくり></p> <p data-bbox="331 371 521 405">□基本的方向性</p> <p data-bbox="359 421 1409 548">本市の人口は、これまで順調に増加してきた。しかし、平成23(2011)年以降、転出者が転入者を上回る社会減に転じている。特に、20歳代前半の年代が大幅な転出超過となっており、その要因の一つに就職が考えられる。</p> <p data-bbox="359 564 1409 692">そこで、快適な住環境を維持しつつ、市内から都心へのアクセス性の向上により、都心への通勤圏であることの優位性を活かした都心に通えるまちづくりを進め、転入促進・転出抑制を図る。</p> <p data-bbox="331 707 469 741">□評価指標</p> <table border="1" data-bbox="331 745 1398 1039"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>現状値</th> <th>目標値</th> <th>主な事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路線バスの年間利用者数</td> <td>1,082,244人 (H27年度)</td> <td>1,092,000人 (R4.12)</td> <td>・市内交通網の充実 ・「通えるまちづくり」の推進</td> </tr> <tr> <td>鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性に満足している市民の割合</td> <td>21.3% (H28年度)</td> <td>38.0% (R4.12)</td> <td>・市内交通網の充実 ・「通えるまちづくり」の推進</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="331 1093 920 1126"><目標3. 人口減少社会に対応したまちづくり></p> <p data-bbox="331 1142 521 1176">□基本的方向性</p> <p data-bbox="359 1191 1414 1413">公共施設を縮小しつつも機能を充実させていく「縮充」の取組や、市内に分散している4市街地において、日常生活に必要な機能を身近に確保しつつ、交通ネットワークの充実などにより時間距離を短縮する多極ネットワーク型コンパクトシティを推進するなど、住み良さの向上を図りながら、人口減少社会に的確に対応するためのまちづくりを進める。</p> <p data-bbox="331 1429 469 1462">□評価指標</p> <table border="1" data-bbox="331 1467 1398 1617"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>現状値</th> <th>目標値</th> <th>主な事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乗合バス及び乗合タクシーの年間利用者数</td> <td>1,274,919人 (H27年度)</td> <td>1,299,000人 (R4.12)</td> <td>・多極ネットワーク型コンパクトシティの推進</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	現状値	目標値	主な事業	路線バスの年間利用者数	1,082,244人 (H27年度)	1,092,000人 (R4.12)	・市内交通網の充実 ・「通えるまちづくり」の推進	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性に満足している市民の割合	21.3% (H28年度)	38.0% (R4.12)	・市内交通網の充実 ・「通えるまちづくり」の推進	指標名	現状値	目標値	主な事業	乗合バス及び乗合タクシーの年間利用者数	1,274,919人 (H27年度)	1,299,000人 (R4.12)	・多極ネットワーク型コンパクトシティの推進
指標名	現状値	目標値	主な事業																	
路線バスの年間利用者数	1,082,244人 (H27年度)	1,092,000人 (R4.12)	・市内交通網の充実 ・「通えるまちづくり」の推進																	
鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性に満足している市民の割合	21.3% (H28年度)	38.0% (R4.12)	・市内交通網の充実 ・「通えるまちづくり」の推進																	
指標名	現状値	目標値	主な事業																	
乗合バス及び乗合タクシーの年間利用者数	1,274,919人 (H27年度)	1,299,000人 (R4.12)	・多極ネットワーク型コンパクトシティの推進																	

2.1.2 龍ヶ崎市都市計画マスタープラン

「龍ヶ崎市都市計画マスタープラン」は、都市計画に関する基本的な方針であり、まちの将来像や都市づくりの目標を定めるとともに、土地利用・道路整備・防災対策・景観形成等、分野別の方針や地域別のまちづくり方針を定めるものである。

表 2-2 龍ヶ崎市都市計画マスタープランの概要（一部抜粋）

項目	内容
計画名	龍ヶ崎市都市計画マスタープラン
策定年度	平成 28 年度（2016 年度）
計画の期間	平成 29 年度（2017 年度）～令和 8 年度（2026 年度）（10 年間）
将来都市像	人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎
都市づくりの目標	1. 次代に誇れる快適で魅力ある都市づくり 2. 地域資源を活かしたにぎわいや活力ある都市づくり 3. 健康で、安全・安心に暮らせる都市づくり 4. 若者世代に支持される住んでみたいと感じる都市づくり 5. 将来を見据えたコンパクトで持続可能な都市づくり
分野別都市づくり方針	1. 拠点整備の方針（コンパクトシティ形成の方針） 2. 土地利用の方針 3. 道路整備の方針 4. 公共交通網形成の方針
公共交通に関する内容	
	<p>■分野別都市づくり方針</p> <p>□公共交通機関の充実</p> <p>○鉄道</p> <p>JR 常磐線のさらなる輸送力の増強や利便性の向上に向けた要請を行っていくとともに、関東鉄道竜ヶ崎線の活性化に取り組む。</p> <p>○バス交通等</p> <p>コミュニティバスの充実とともに、民間の路線バスとの連携強化を図ることで、利用者の利便性の向上等、バス交通サービスの充実を図る。</p> <p>通勤通学や日常生活の移動ニーズに対応するため、近隣自治体と連携した広域的なバス交通体系の確立を目指す。</p> <p>バス路線から離れた地域の方や高齢者等の交通弱者のための移動手段として、乗合タクシーの利便性の向上を図る。</p> <p>□公共交通の利用環境の向上</p> <p>交通結節点となるJR常磐線龍ヶ崎市駅（旧名：佐貫駅）や関東鉄道竜ヶ崎駅の駅前広場を整備し、市民や他市町村から訪れる人々の交流の場を創出するとともに、バス交通等への乗換えのための歩行・滞在空間の快適化を図ることで、駅前広場としての機能の拡充を進める。</p> <p>公共交通のバリアフリー化を推進し、利便性と安全性の向上を図る。</p> <p>円滑に公共交通が利用できるよう、バス事業者に対してIC カード導入に向けた要請を行う。</p> <p>自家用車の代替となる自転車の利用促進に向け、歩行者や自転車利用者の安全性に十分配慮した環境の整備を進める。</p> <p>過度な自動車利用からの転換を図るため、公共交通や自転車の利用促進に向けた取組を行う。</p>

2.1.3 龍ヶ崎市地域公共交通網形成計画

「龍ヶ崎市地域公共交通網形成計画」は、地域公共交通ネットワーク全体をまちづくりと連携して一体的に形づくり、持続させるために、様々な事業を定めるものである。

表 2-3 龍ヶ崎市地域公共交通網形成計画の概要（一部抜粋）

項目	内容
計画名	龍ヶ崎市地域公共交通網形成計画
策定年度	平成 28 年度（2016 年度）
計画の期間	平成 29 年度（2017 年度）～令和 3 年度（2021 年度）（5 年間）
基本理念	人とまちを元気にする 持続可能な地域公共交通ネットワークの構築
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市域内外の連携を支える地域公共交通 2. まちづくりと一体となった地域公共交通 3. 利便性の高い、安全・安心な地域公共交通 4. 市民と協働で支える持続可能な地域公共交通
計画目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしを支える地域公共交通網の構築 2. 地域公共交通の充実及び持続性強化による円滑な移動の実現 3. ニーズを踏まえた地域公共交通ネットワークの構築 4. 地域公共交通への市民の理解や関心を高める取組みの推進
目標を達成するために実施する施策メニュー	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施策 1：広域的な地域公共交通ネットワークを構築し多様な生活交通を確保 <ol style="list-style-type: none"> 1-1：JR 常磐線の利便性向上 1-2：広域的な地域幹線路線バスの安定的な運行と新たな路線の検討 ■ 施策 2：交通利用環境の充実 <ol style="list-style-type: none"> 2-1：昼間割引運賃制度の拡大及び路線バス・関東鉄道竜ヶ崎線の通学割引等の検討 2-2：コミュニティバス乗継券及び 1 日乗車券の導入 2-3：コミュニティバスの割引制度の充実 ■ 施策 3：コミュニティバスの見直し <ol style="list-style-type: none"> 3-1：コミュニティバス運行計画の見直し ■ 施策 4：交通結節点における連携強化 <ol style="list-style-type: none"> 4-1：交通手段の連携強化と交通結節点の充実 ■ 施策 5：まちづくりの特色を活かした地域公共交通ネットワークの構築 <ol style="list-style-type: none"> 5-1：道の駅へのシャトルバスの運行 5-2：新都市拠点地区などへのバスターミナルの設置の検討 ■ 施策 6：誰もが移動しやすい地域公共交通の実現 <ol style="list-style-type: none"> 6-1：乗合タクシーの充実 6-2：バスロケーションシステム導入など分かりやすい運行情報の提供 6-3：路線バス IC カード導入 6-4：バリアフリーの推進 6-5：駐輪場の整備 6-6：バス停留所施設の環境改善 6-7：関東鉄道竜ヶ崎線安全設備の整備 6-8：コミュニティバス車両の更新 ■ 施策 7：多様な主体で支える仕組みづくりと意識の醸成 <ol style="list-style-type: none"> 7-1：サポーター制度の構築及び団体・組織と連携した地域公共交通活性化事業の実施 7-2：モビリティ・マネジメントの実施 7-3：ノーマイカーデーの促進

2.2 現行計画の進行評価

龍ヶ崎市では、平成 29 年度に龍ヶ崎市地域公共交通網形成計画を策定しており、20 の施策・事業を位置づけている。平成 29 年 4 月～令和 4 年 1 月までの実施状況その施策・事業の実施状況の評価を行う。

検証手順	検証の方法
①施策・事業の実施状況評価	A: 予定通り業務を完了した(完了予定の)事業 B: 概ね予定通り業務を実施し、完了した(完了予定の)業務 C: 予定から遅れているが、期限内に完了予定の業務 D: 予定通り業務を実施できていない、または計画期間内に完了しない見込みの業務
②今後の見直しの必要性	一: 完了した事業 O: 今後も継続することが望ましい事業 △: 事業内容を見直して継続することが望ましい事業 ×: 根本的な見直しが必要な事業

NO	実施事業	事業内容	①評価		②見直し	今後の課題
				評価理由		
1-1	JR 常磐線の利便性向上	・龍ヶ崎市単独による要望活動の実施	D	平成 30 年度以降、市単独要望は実施していないため。	×	要望活動を行う場合は、市加盟団体を通じて行うよう事業を整理する必要がある。
		・市加盟団体による要望活動等	B	要望活動を定期的に実施しているほか、常磐線の品川駅の乗り入れや龍ヶ崎市駅の安全設備の整備が実施されるなど、一定の効果が上がっているため。	△	近年のコロナ禍による利用者及び旅客収入の減少を考慮し、要望内容について再考する必要がある。
		・鉄道利用安全性向上の支援	A	安全設備の充実が図られているため。	—	—
1-2	広域的な地域幹線路線バスの安定的な運行と新たな路線の検討	・広域的な地域公共交通の確保・維持補助事業	A	広域的な地域公共交通の維持確保が図られているため。	—	—
		・広域路線バスの検討及び実証運行	B	実証運行は終了しており、現在は情報収集を行っている状況のため。	△	実証運行の終了、近年のコロナ禍による利用者及び旅客収入の減少を考慮して、引き続き情報収集を行う必要がある。
2-1	昼間割引運賃制度の拡大及び路線バス・関東鉄道龍ヶ崎線の通学割引等の検討	・路線バス昼間割引運賃制度の拡大	B	利用状況の把握や制度拡大の検討を継続して行っているため。	△	ヘビーユーザーの利用者の確保の観点から必要性が高いと想定される。通学利用状況やニーズ等を踏まえて、内容等を再考する必要がある。
		・路線バス及び関東鉄道龍ヶ崎線での通学者支援	B	利用状況の把握や制度の検討を継続して行っているため。	△	ヘビーユーザーの利用者の確保の観点から必要性が高いと想定される。通学利用状況やニーズ等を踏まえて、内容等を再考する必要がある。

NO	実施事業	事業内容	①評価		②見直し	今後の課題	
				評価理由			
2-2	コミュニティバス乗継券及び1日乗車券の導入	・コミュニティバス乗継券の発行	平成29年度から平成30年度にかけて、乗継券の具体的な運用について協議を進めた。令和元年度9月のコミュニティバス運行計画再編に合わせて導入を行った。令和2年度は周知PRを行っている。	A	乗継券の発行自体は終了しており、現在は周知PRの段階に入っているため。	—	
		・コミュニティバス1日乗車券の導入	平成29年度から平成30年度にかけて、1日乗車券の具体的な運用について協議を進めた。令和元年度9月のコミュニティバス運行計画再編に合わせて導入を行った。令和2年度は周知PRを行っている。	A	1日乗車券の導入自体は終了しており、現在は周知PRの段階に入っているため。	—	
2-3	コミュニティバスの割引制度の充実	・コミュニティバス通学定期券の導入	平成29年度から平成30年度にかけて、コミュニティバス通学定期券の具体的な運用について協議を進めた。令和元年度9月のコミュニティバス運行計画再編に合わせて導入を行った。令和2年度は周知PRを行っている。	A	通学定期券の導入自体は終了しており、現在は周知PRの段階に入っているため。	—	
		・高齢者向け市内公共交通共通定期券(おたっしゅバス)	平成29年度から平成30年度にかけて、高齢者向け市内公共交通共通定期券の一部対象年齢の拡大について協議を進めた。令和元年度9月のコミュニティバス運行計画再編に合わせて運用拡大を行った。令和2年度は周知PRを行っている。	A	共通定期券の運用拡大自体は終了しており、現在は周知PRの段階に入っているため。	—	
		・運転免許自主返納支援事業	平成29年度から平成30年度にかけて、運転免許自主返納支援事業の対象年齢拡大等について協議を進めた。令和元年度9月のコミュニティバス運行計画再編に合わせて運用拡大を行った。令和2年度は周知PRを行っている。	A	自主返納支援事業の運用拡大自体は終了しており、現在は周知PRの段階に入っているため。	—	
		・ランドセルチケット	平成29年度から平成30年度にかけて、ランドセルチケットの据え置き金額での運用について協議を進めた。周知PRを継続して行っている。	A	据え置き金額での運用継続が図られているため。	—	
3-1	コミュニティバス運行計画の見直し	・コミュニティバス運行計画(ルート、ダイヤ)の見直し	平成29年度から平成30年度にかけて見直し後の運行計画について協議を進めた。令和元年度9月のコミュニティバス運行計画再編後、令和元年度と令和2年度に一部ルート・ダイヤ改正を行っている。	A	運行計画の見直しを行い、再編後も継続した見直しが行われているため。	—	
4-1	交通手段の連携強化と交通結節点の充実	・交通手段の連携	平成29年度から平成30年度にかけて、デジタルサイネージの整備に向けた検討を行い、令和元年度及び令和2年度に整備を行っている。	B	交通手段の連携及び交通結節点の充実化に向けた取り組みが行われているため。	○	引き続き、運用を行っていくとともに、周知PRを行っていくことが必要となる。また、利用者への効果検証を行うことが必要となる。
		・深夜バス(JR常磐線龍ヶ崎市駅(旧名:佐貫駅)～関東鉄道竜ヶ崎駅)の実証運行及び検証	平成28年度から令和2年度の5年間に渡り、実証運行を行ったが、利用が振るわず、令和3年3月末を持って深夜バスの実証運行は終了することとなった。	A	実証運行及び検証が行われているため。	—	—
		・関東鉄道竜ヶ崎駅の待合機能の充実	コミュニティバス待合室「りゅう舎」を整備し、ベンチやデジタルサイネージを設置することで、竜ヶ崎駅の待合機能の充実を図った。	A	待合室の整備及びデジタルサイネージの設置など待合環境の充実が行われているため。	—	—
5-1	道の駅へのシャトルバスの運行	・道の駅へのシャトルバスの運行	道の駅開業が未定となったことから開業時期に合わせ運行する方針を示した。	D	シャトルバスの運行が行われていないため。	×	道の駅の開業が未定のため、事業への位置づけについて再考する必要がある。

NO	実施事業	事業内容	①評価		②見直し	今後の課題
				評価理由		
5-2	新都市拠点地区などへのバスターミナルの設置の検討	・新都市拠点地区などへのバスターミナルの設置の検討 新都市拠点開発エリア整備事業の進捗状況を注視している。	D	具体的な整備計画が進められていないため。	×	具体的な整備計画が未定のため、事業への位置づけについて再考する必要がある。
6-1	乗合タクシーの充実	・乗合タクシーのPR活動 市広報誌やホームページへの掲載のほか、敬老会参加者に対しチラシを配布し、制度の周知を図っている。	A	PR活動が継続的に行われているため。	—	—
		・運行内容の充実 平成29年度から令和元年度にかけて、目的地の拡大について協議を進めて、令和元年9月より目的地に追加した。	A	目的地の拡大など、運行内容の充実化が行われているため。	—	—
6-2	バスロケーションシステム導入など分かりやすい運行情報の提供	・バスロケーションシステムの導入 平成29年度から平成30年度にかけて、バスロケーションシステム及び交通結節点におけるデジタルサイネージの整備に向けた検討を行い、バスロケーションシステムは令和元年度に整備、デジタルサイネージは令和元年度及び令和2年度に整備を行っている。	A	交通手段の連携及び交通結節点の充実化に向けた取り組みが行われているため。	—	—
		・地域公共交通ガイドの作成・配布 平成30年度にリーフレットの内容及びレイアウトを検討し、令和元年9月の再編に合わせて市内全戸に配布するとともに、公共施設等にも設置し、周知を図った。令和2年12月に実施した一部ルート・ダイヤ改正に伴い、改正後のリーフレットを作成して、コミュニティバス利用者に配布している。	A	リーフレットを作成して、運行内容の変更に合わせて、掲載内容の改訂も行われているため。	—	—
		案内誘導サインの整備 令和元年9月の再編に合わせ、竜ヶ崎駅及び市役所にバス停車位置を示す表示を設置した。	A	案内誘導サインの整備が行われているため。	—	—
6-3	路線バスICカード導入	・路線バスICカード導入 平成30年3月から、関東鉄道路線バス全線において交通系ICカードの利用を開始した。また、令和3年10月からコミュニティバス循環ルートにおいて交通系ICカードの利用を開始した。	A	関東鉄道路線バス全線において、交通系ICカードの利用が可能となったため。	—	—
6-4	バリアフリーの推進	・ノンステップバス導入事業費補助 交通事業者が導入したノンステップバスに対して補助金の交付を行っている。	A	事業費補助が行われているため。	—	—
		・コミュニティバスへのノンステップバス導入 コミュニティバスの車両更新にあたり、利用者が多い循環ルートにおいてノンステップバスを導入している。	A	ノンステップバスの導入が図られているため。	—	—
6-5	駐輪場の整備	・駐輪場の環境整備 未実施	D	未実施のため。	×	駐輪場の環境整備の必要性を再確認し、内容等を再考する必要がある。
		・新たな駐輪場の整備 未実施	D	未実施のため。	×	駐輪場の環境整備の必要性を再確認し、内容等を再考する必要がある。
		・サイクルトレインの実施 継続的にサイクルトレインを実施している。	A	サイクルトレインは継続的に実施されているため。	—	—

NO	実施事業	事業内容	①評価		②見直し	今後の課題	
				評価理由			
6-6	バス停留所施設の環境改善	・バス停留所の上屋及びベンチの設置	令和元年9月のコミュニティバス再編に合わせて、バス停の移動、上屋及びベンチの設置を行った。また、令和元年以降、近隣商業施設等からの協力のもと、トイレや軒下当を無償で借りられる「バス待ち環境快適化事業『まてまて』」を展開して、バス待ち環境の改善を図った。	D	再編時に市役所に上屋及びベンチを設置したが、少数にとどまっているため。	△	引き続き、優先度が高いバス停留所などにおいて、上屋及びベンチの設置等を進めることが必要となる。
		・既存のバス停留所の修繕	未実施。	D	未実施のため。	×	市所有の上屋・ベンチは、市役所や文化会館など少数に限られるため、再度修理の必要性を確認し、必要がなければ、新規設置を優先する。
6-7	関東鉄道竜ヶ崎線安全設備の整備	・関東鉄道竜ヶ崎線安全設備の整備	関東鉄道竜ヶ崎線の安全設備整備として国及び県と協調し、安全設備等に補助金を交付し輸送の安全性向上を図った。	A	安全設備の整備が図られているため。	—	—
6-8	コミュニティバス車両の更新	・コミュニティバス車両の更新	令和元年9月のコミュニティバス再編に合わせて、全路線において、市オリジナルラッピングを施した車両を新規に導入し、マイバス意識の向上を図った。	A	車両の更新及びラッピングが行われているため。	—	—
7-1	サポーター制度の構築及び団体・組織と連携した地域公共交通活性化事業の実施	・地域公共交通のサポーター組織設立に向けた準備・支援	平成29年度に市内の学校や団体、商工会など趣旨に賛同する団体の協力を得て活性化協議会を立ち上げた。また、公共交通利用促進を目的とする事業に対する補助制度を制定した。	A	組織設立が行われたため。	—	—
		・地域公共交通活性化事業の実施	平成29年度の組織設立以降、毎年度、5事業程度、地域公共交通活性化事業を実施している。	A	地域公共交通活性化事業が継続的に行われているため。	—	—
7-2	モビリティ・マネジメントの実施	・モビリティ・マネジメントの実施	毎年度、市内4つの小学校及び1つの幼稚園に対して、学校教育におけるモビリティ・マネジメントを実施している。	B	対象者が小学生及び幼稚園のみとなっているため。	△	高齢者など、実施対象者の拡大について検討することが必要となる。
7-3	ノーマイカーデーの促進	・「ノーマイカーデー龍ヶ崎」の実施	毎年度、市職員に対し、ノーマイカーデーを推進している。通勤・帰宅時の具体的なコミュニティバス利用例を庁内掲示板に提示したほか、イベント時には公共交通機関の利用を呼び掛けている。	A	地域公共交通活性化事業が継続的に行われているため。	—	—
		・市職員による「エコ通勤」の取り組み	平成30年度以降、アンケート調査、回数券の案内、コミュニティバス通勤者に対する負担軽減策の導入検討を行っている。	B	職員の意識向上に向けた取り組みが行われているため。	△	引き続き、職員のエコ通勤に向けた検討を継続するとともに、これまでの実施内容に関する効果検証及び新規施策の検討を行うことが必要となる。